

月次県内経済

概況 横這い圏内ながら持ち直しの動き

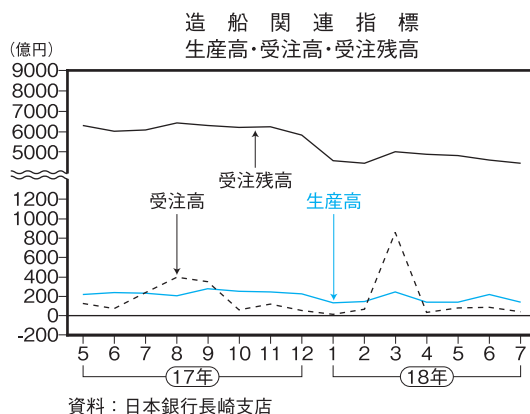
<8月>生産面では大手・中堅造船は一部で操業がやや弱含み、重電機械は堅調、電子部品は増勢。需要面では、公共工事請負金額は高水準ながら増勢一服、新設住宅着工戸数は底堅い。個人消費では大型小売店販売額は弱含み、乗用車（登録車）販売台数は増勢一服。観光面は、記録的な猛暑や台風の影響などから主要観光施設の入場者数は前年割れ。雇用面では有効求人倍率が1.2倍台と人手不足の状況続く。企業倒産件数は引き続き低水準。9月入り後は、天候不順もあって消費低調も、生産・投資は底堅い。

造船

一部では操業やや弱含みも、中小は堅調

大手・中堅造船では、一部の船種に新造需要回復の兆しがみられるものの、価格面での競争は引き続き厳しい模様。生産面では、受注残の減少が続くなか一部では操業度がやや弱みで推移。

地場中小造船では、既往の受注を背景に高めの操業を続けているほか、更新需要もあって貨物船や漁船、官庁船などの受注を確保している。

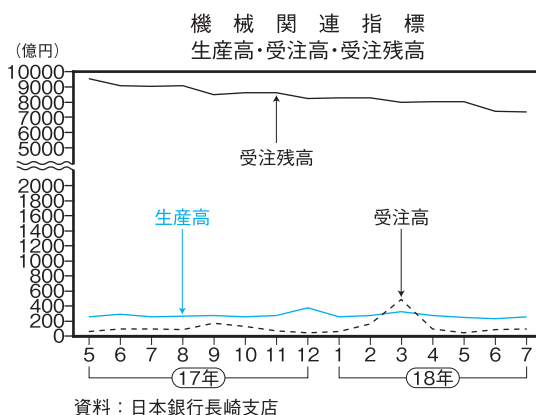


機械

重電機械は概ね生産堅調、電子部品は増加継続

重電機械では、原動機（タービン、ボイラー、エネルギー関連等）は国内外ともに受注が弱含みで推移している。電動機は比較的高めの受注残を背景に一定の操業を維持している。列車空調装置は高水準の受注残を維持。

電子部品では、海外との競争など厳しい環境ながら、生産増加継続。



小売商況

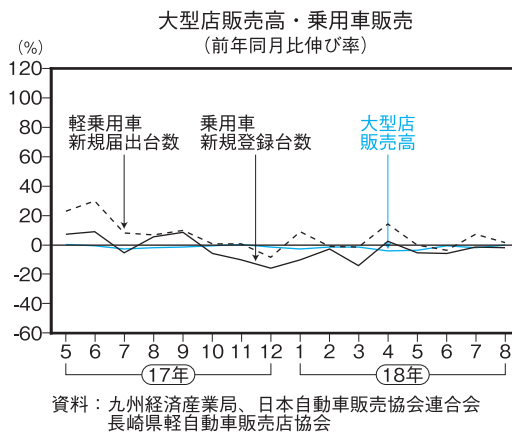
概ね横這い圏内も弱含み

小売商況をみると、8月の県内大型小売店販売額は、前月に続き前年割れ。乗用車販売は登録車が前年割れ、軽乗用車は伸び率縮小もプラス。一方、サービス消費面の旅行取扱高は前年割れ。なお、9月度の大型小売店等の売上げについても、軟調推移。

8月の**大型小売店販売額**（百貨店・スーパー35店、九州経済産業局調べ）は88億円、前年同月比0.3%減（同一店舗比較）と9カ月連続のマイナス。品目別では、飲食料品が2.7%増となったものの、衣料品は、主力の婦人服等が6.0%減、紳士服・洋品が6.8%減、身の回り品も13.2%減となるなど全体では8.0%減。このうち百貨店では、猛暑や台風などの天候要因もあり、食料品や雑貨が伸びたものの、衣料品や身の回り品などが振るわなかった。スーパー・大型店等では、インバウンド客増もあってドラッグストアの好調が続き、コンビニも堅調な売り上げが続いている。

乗用車販売では、8月の**新規登録台数**は1,480台、前年同月比1.9%減と4カ月連続のマイナス。うち普通車は2.1%増の741台、小型車が5.6%減の739台。また、軽乗用車は1,433台、1.6%増となり、2カ月連続の増加。軽を含む総販売台数では2,913台、0.2%減となり2カ月振りに前年を下回った。

サービス消費面では、8月の県内主要旅行業者の旅行取扱高が、前年同月比12.9%減となり、4カ月連続のマイナス。うち、国内旅行が30.1%減で2カ月連続のマイナス、海外旅行は39.4%増となり5カ月振りのプラス。

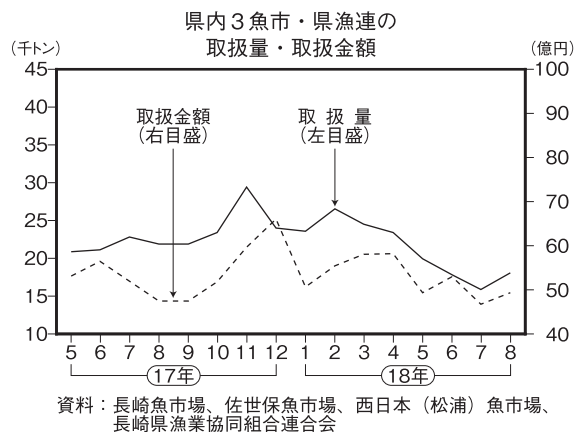


水産

取扱量が減少するも、金額は増加

8月の県内3魚市と県漁連の取扱い状況を見ると、**取扱量**が1.8万トン、前年同月比17.4%減少するも、**取扱金額**は49億円、同4.1%増加した。

魚種別の水揚げ（日本遠洋旋網漁業協同組合調べ）をみると、アジは数量が前年同月比4.4%増加し、単価も96.7%上昇、金額は2倍超となった。また、サバも数量が同65.2%増となり、単価が25.9%上昇、金額はアジと同じく2倍超となった。



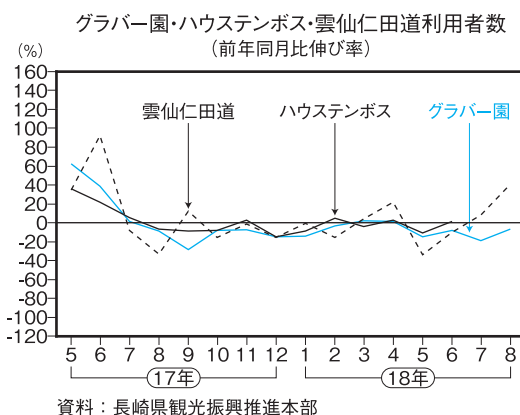
観光

主要施設の入場者数は減少するも、宿泊客数は増加

8月の県内観光をみると、酷暑や台風の影響から主要観光施設の入場者数は4カ月連続減となるも、県北地区が牽引した主要宿泊施設の宿泊客数は増加した。

主要観光施設等（13施設）の入場者は781千人、前年同月比4.8%減少するも、その減少幅は縮小傾向。地区別にみると、県南地区はグラバー園（6.8%減）と長崎原爆資料館（14.0%減）、長崎歴史文化博物館（33.0%減）いずれも減少した。また、島原半島ではリニューアル工事を終えた雲仙岳災害記念館が4倍増と絶好調を維持し、避暑ニーズをつかんだ雲仙仁田道（40.4%増）も大幅増となったものの、島原城（1.0%減）は前年割れとなった。一方、県北地区では国内唯一の全国サーキット型野外フェス「a-nation 2018」が開催されたハウステンボス、九十九島パールシーリゾート（6.4%減）、平戸城（5.6%減）いずれも前年を下回った。離島地区では、世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」に関連する堂崎天主堂（24.7%増）が引き続き好調を維持しており、万松院（34.2%増）も増加したものの、一支国博物館（1.5%減）は前年割れ。

県内主要宿泊施設（42社、日本銀行長崎支店調べ）の宿泊客数は、前年同月比5.0%増加した。地区別にみると、県南地区は4.5%減少したものの、県北地区が12.8%増加した。一方、雲仙・小浜の各観光協会の調べによると、雲仙地区の宿泊客数は18千人、前年同月比20.3%減となり、小浜地区も13千人、同11.1%減少した。



公共工事

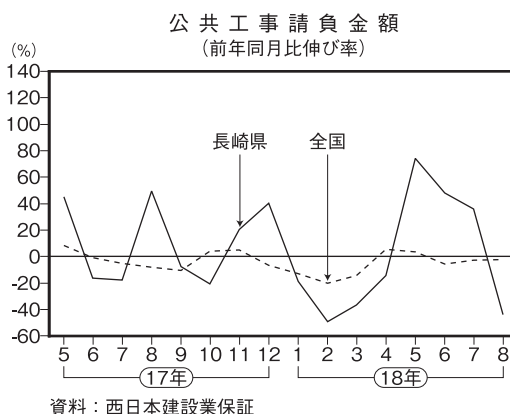
請負金額、増勢一服

8月の県内公共工事（西日本建設業保証取扱分）をみると、**請負件数**は360件、前年同月比16.9%減となり2カ月振りの減少、**請負金額**は118億円、同43.8%減と4カ月振りに前年を下回った。

主要発注者別の**請負金額**では、「国」（10億円、82.4%減）、「県」（37億円、26.7%減）、「市・町」（65億円、24.7%減）いずれも減少した。

また、地区別の**請負金額**をみると、前年を上回ったのは、大瀬戸地区（6億円、19.2%増）、上五島地区（4億円、95.2%増）の2地区。一方、長崎地区（31億円、2.5%減）、諫早地区（20億円、32.5%減）、県北地区（17億円、67.4%減）など8地区では前年を下回った。

なお、同月の大型工事は、西日本高速道路（株）九州支社発注の「長崎自動車道諫早インター橋（下部工）工事」（2億円）。



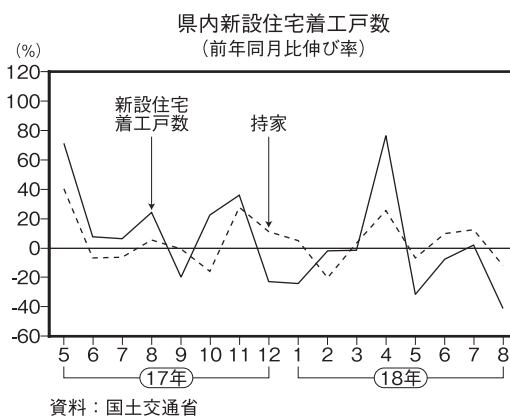
住宅建設

やや足踏み感も

8月の**新設住宅着工戸数**は467戸、前年同月比では41.0%減。減少率の大きさは高水準であった前年同月の反動によるところが大きいですが、動向にはやや足踏み感もある。

主な利用区分別にみると、持家（239戸、12.1%減）、貸家（190戸、47.7%減）、分譲（33戸<うちマンション0戸>、78.6%減）いずれも前年を下回った。

主な市郡別（県建築課調べ）では、長崎市（120戸、53.8%減）、佐世保市（103戸、37.2%減）、大村市（99戸、13.9%減）など都市部を中心に12市郡で前年を下回り、上回ったのは五島市（11戸、10.0%増）、東彼杵郡（10戸、11.1%増）など5市郡にとどまった。



雇用

緩やかな改善傾向続く

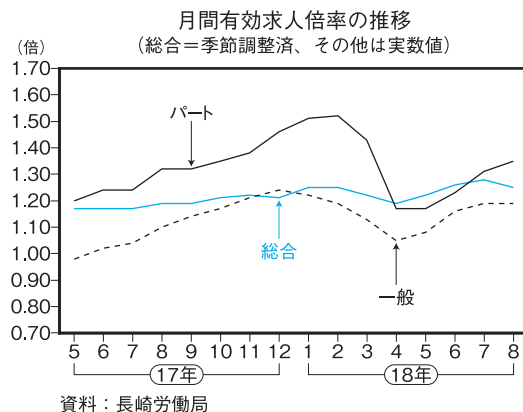
8月の県内の**有効求人倍率**（季節調整済）は前月を0.03ポイント下回る1.25倍。また、全国の有効求人倍率は前月と同水準の1.63倍となった。

新規求人数は10.5千人、前年同月比0.3%増となり、4カ月連続の増加となった。形態別では、一般求人が4.0%増と2カ月振りの増加、パート求人は4.8%減と2カ月振りの減少。主な業種別にみると、運輸業（22.9%増）、建設業（20.8%増）では2桁増となったほか、飲食店・宿泊業（9.2%増）、医療・福祉（3.8%増）などでも前年を上回ったが、サービス業（22.1%減）、卸売・小売業（7.5%減）などでは前年を下回った。一方、**新規求職者数**は5.6千人、前年同月比6.0%減となり11カ月連続の減少。形態別では、一般求職者が7.8%減、パート求職者は2.5%減であった。

また、**有効求人数**は28.3千人、前年同月比1.4%増となり4カ月連続のプラス、一方、**有効求職者数**は22.3千人、5.7%減と8カ月連続で前年を下回った。

就職件数は2.0千件となり前年同月比8.2%減。また、**雇用保険受給者実人員**は5.6千人、前年同月比4.0%減となった。

県内の雇用データをみると、緩やかな改善傾向が続いている。



企業倒産

件数・金額ともに低水準が続く

9月の県内の**企業倒産件数**（東京商工リサーチ調べ）は、前年同月比1件増の3件と、14年11月以降、47カ月連続の一桁台となり低水準が続く。

また、**負債総額**も1.8億円と、大型倒産が発生した前年同月に比べ約2億円減少するなど、こちらも低水準となった。

倒産を業種別にみると、サービス業が2件と小売業が1件。また、その原因は全て「販売不振」。

